

国語

1

【出典】 中村桂子『科学者が人間であること』(岩波新書)

解答

問1 a—② b—④ c—① d—⑤ c—②
問2 Ⅰ—① Ⅱ—④

問3 ③

問4 ②

問5 Ⅲ—② Ⅳ—⑤

問6 ③

問7 ④

問8 ⑤

問9 ①

問10 ③

解説

問2 Ⅰ、空欄Ⅰ直前の第二段落は、「和辻」が参照した「ユクスキュル」の「環世界」という概念について説明している。これに対し、空欄Ⅰ直後は「机、椅子、本棚」といった具体的な事物を取り上げ、「環世界」の説明を行っている。このことから空欄Ⅰには、具体例が後続することを示す①「たとえば」が最適と言える。

Ⅱ、空欄Ⅱの直前では、アリが「部屋」の中で関心を持つのは「ケーキ」だ、という具体例が挙げられている。そして空欄Ⅱに続く文は、「部屋」が「アリ」にとって「ケーキのある場所」という内容である。よって、これら同じ主旨の二文をつなぐには④の「言いかえれば」が最適である。

問3 選択肢間に共通している「ベルク」「和辻」「ユクスキュル」「ハイデガー」の全てが出現している傍線部Ⅱの次の段落を参照する。ここで、和辻が「対応して考えた」という「ハイデガー」が「ユクスキュルの影響を受けた」という考察を基に、「和辻は間接的にユクスキュルの影響を受けた」としたベルクの分析が記されている。

問4 指示語の指示内容は、まず直前部から探するのが基本。そうすると、

「すべてを一つの尺度ではかり、分析しようとする機械論的世界観」と対比されている「ユクスキュルの指摘」がある。この「指摘」の内容は、「生きもののそれぞれに……環世界がある」と記されており、これに②の「生きものには固有の環世界があり」という記述が合致する。

問5 Ⅲ、空欄Ⅲ直前の「つまり」は、前述までの内容を短く言い換える役割を持つ。したがって、直前の一文における主題を考えるとよい。そして、その主題は「ベルク」が説明した「風土」である。ゆえに、空欄Ⅲにふさわしいのは②の「風土」。

Ⅳ、この次の文で「それが『風土』です」と言っているのだから、「風土」が人間にとってどのようなものかを述べた空欄Ⅲ直前の一文に着目し、⑤「主體的」を選ぶ。

問6 脱文は、「エコ」に関する「面白味のない、スローガン」についての内容である。そして、この脱文が「そして」という累加の接続詞で始まっていることから、直前に「エコ」に関するマイナスの文がある箇所が適切と推測できる。すると、直前で「人間」が「自然から離れ」「自然への対処」が「抽象化される」と述べられている空欄③が正解とわかる。

問7 傍線部Ⅱを含む第十段落の直前に空白行があることから、この段落以降に照準を合わせる。ここで筆者は「自然」について、「手をつけない天然の状態」だけではなく、「徹底的に手を入れて生産の場」としたところにも、「生のままの自然以上に自然を感じ」と主張している。これに合致するのは④である。

問8 指示語の指示内容は、まず直前部から探す。指示語直前の一文では、「さまざまな地域での文明の展開」を原因として、「自然への向き合い方が変わっ」たことが述べられている。この内容と一致するのは⑤である。

問9 設問が「ダイアモンド」の考えを尋ねていることを踏まえ、彼の考えについて説明している次の段落を参照する。ここでは、人類の文明は「それぞれの地域の環境・『自然』」によって決まる、というダイアモンドの考えが記されている。そのため、ニューギニア人の疑問に「自然に溶け込んだ」ことを原因として説明している①が正解。

問10 選択肢間の共通要素である「自然」がヒント。筆者は本文中で、「自然の中にある」という日本人の感覚を「みごとな生き方」(傍線部Ⅱの次の段落末文)と評価している。この主張から、「自然」を「自分が入り

込んでいるもの」として捉え、「人間は生きものの一つという立場」として考えるとした③が最も適当と判断できる。

2

出典

【文章A】西尾幹二「教養について」

【文章B】橋本治「負けない力」(朝日文庫)

解答

問1 a-③ b-③ c-④ d-② e-⑤

問2 I-② II-⑤

問3 あ-④ い-②

問4 ⑤

問5 ④

問6 ③

問7 ①

問8 ③

問9 ④

問10 ③

▲解説

問2 I、空欄Ⅰの直前部は、「ヨーロッパ」を「高級と見做し」た中根氏の発言の引用である。そして空欄Ⅰ直後では、この中根氏の発言について、「ヨーロッパは流石である、などと書いていた」という筆者の記憶が記されている。これら前後の内容から、空欄Ⅰには、直前部を要約する役割を持つ②「つまり」が最適と考えられる。

II、空欄Ⅱの直前まで、「近代」と「近代以前」の日本人の比較を行っている。そして空欄Ⅱ直後では、「江戸時代まで」という「近代以前」の具体例が取り上げられている。そのため、空欄Ⅱには具体例を導く役割を持つ⑤「例えば」が最適と判断できる。

問3 あ、波線部あは、相手が承知するか否かを問わずに強いて行わせる様を表す表現である。これの言い換え表現として適切なものが、なにがなんでも④という意味を持つ④「否が応でも」である。

い、波線部い直前に「ヨーロッパ的に」という表現があることから、「色をつけて解釈する」は〈偏見や先入観で物事を判断すること〉の喩えだと判断できる。したがって、正解は②。

問4 「教養が日常に根差」すものとしてヨーロッパを評価した「推薦文」

に対し、筆者は「あり得ない」と否定している(第一段落)。その上で、その「あり得ない」ヨーロッパを「高級と見做し」、これに「大衆よりも近い位置に立」つことを自身の「知識人」であることの証明とした、当時の日本人の考えを取り上げている。これに一致するのは⑤である。

問5 傍線部イを含む一文が、「これとは逆に」から始まっていることに着目。この「これ」の指示内容は、前文の「ヨーロッパ文明」を「有難がる」という内容である。したがって、これとは「逆」に、「伝統文化を日本人だけが理解できる優れたもの」とした上で、「ヨーロッパ」を「日本」と対立的に扱っている④が最も適当とわかる。

問6 「近代日本人」に起こったマイナスの事態を探す。傍線部ウを含む段落では、日本人の「近代」はヨーロッパ化によって手に入れたのだが、「ヨーロッパにはなり切らなかつた世界」である上、その日本の「近代」は「古い日本」の連続体として発展したものではない、と説明している。この二点を踏まえているのは③である。

問7 夏目漱石のデビュー作は「坊っちゃん」ではなく、俳句雑誌「ホトトギス」に掲載された「吾輩は猫である」である。

問8 二つ日の空欄の後に、「つまりは『知ったかぶり』です」とあるのに着目すれば、よく知っているというような顔つき③を意味する、③の「心得顔」が入るとわかる。

問9 「赤シャツ」と「野だいこ」は、「白黒の写真図版の『ぼやけたターナー』」しか見ていない、あるいは「ターナーの絵」をよく知「らないままターナーについて話している。【文章A】では「自分が日本の大衆よりも近い位置に立っている」ことをもって「知識人・教養人」の自己証明とした日本人を批判しているが、【文章B】の「赤シャツ」「野だいこ」の言動はこれに一致する。

問10 【文章A】【文章B】ともに、近代日本の教養の基本にヨーロッパがあることを指摘している。【文章A】では、日本人が「真の教養」を得ることは、微妙な二重構造ゆえに「厄介な事態」になっていると書かれている。【文章B】では、【文章A】で指摘されている「ヨーロッパ世界を何から何まで高級と見做し……教養人たる事の自己証明とし」ている人物として「赤シャツ」と「野だいこ」が描かれている。夏目漱石は【文章A】で書かれたことを、「坊っちゃん」執筆時点で看破していたのである。これを的確にまとめているのは③である。